

授業作り	重 点	○児童の「意欲を高める」「理解を深める」授業を実践する。基礎的・基本的な学力を確実に定着させるとともに、それを活用し主体的・対話的な授業の充実を図る。
環境作り		○一人1台タブレット端末を効果的に活用し、個別最適化された学び・協働的な学び・家庭と連携した学び等の充実を図る。ICT機器を効果的に活用し、児童の驚きや発見を導き、理解を深める。ユニバーサルデザインの視点から個に応じた学びの充実を図る。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの読み方については、概ね理解しているが、筆順や「トメ」「ハネ」等を正確に書くことについては、繰り返し練習し、定着させる必要がある。 ・知らない言葉を正確に理解できるように、教材文や読み聞かせ、読書の推進から語彙量を増やし、日常生活の中で使いこなせるようにする。 ・1から10の数は捉えられる。今後、ものとものを対応させることで個数を比べたり、個数や順番を正しく数えたり表したりすることなどを指導し、整数の意味について理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 語句や語句のまとまりを意識した音読活動 ② 読書環境の充実と学校図書館の活用 ③ デジタルドリルやプリントを活用した反復学習 ④ 具体物、半具体物の活用 ⑤ ICT機器を活用した学習
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・既習のひらがな・カタカナ・漢字について、概ね読み書きはできているが、誤字脱字や句点のうち忘れが多く、文意識を育てていく必要がある。 ・文章を正確に読み、根拠となる部分を基に話の内容を理解する力が必要である。 ・加減計算で繰り上がりや繰り下がりのないものは概ね理解できているが、繰り上がりや繰り下がりがある問題に対しては課題が残る。 ・問題文から立式をするのに、内容を正しく読み取る力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 日記の課題 ② 日々の音読の課題 ③ デジタルドリル・スキルアップドリルの活用 ④ 具体物や図を取り入れた学習指導
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きは、概ねできている。 ・細部まで文章の内容を読み取れず、大事な言葉を追って読むことにまだ課題がある。 ・話の要点を聞き取れない児童が多い。 ・3位数の加法・減法の筆算は概ね正答できているが、具体的な場面を図に表すことに誤答が多い。 ・○m○cmは○cmのように、長さの単位 	<ul style="list-style-type: none"> ・大事な言葉は補足をしないと探せないことがあるので、質問形式で問うことで大事な言葉を見付けられるように、指導していく必要がある。 ・文章の読み違いがないように、各場面・段落ごとに読み取りながら授業を進めていく。 ・文章問題にたくさん触れられるようにする必要がある。 ・具体物や半具体物を取り入れて、実感をもって考えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 国語辞典の活用 ② 場面や段落ごとのキーワードに着目させる学習指導 ③ デジタルドリルの活用 ④ 問題の反復練習 ⑤ 具体物や半具体物を取り入れた学習

	<p>換算で誤答が多い。</p>		
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・新単元や新出漢字への取り組みに対して意欲が高い児童が多い。 ・説明的文章、文学的文章では、文章の役割や登場人物の心情について読み取ることもできる。一方で、文章全体を正しく読むことを苦手としている児童もいる。 ・数量の関係を式に表現することはできる。その一方で、図形を描いたりすることを苦手としている児童もいる。 ・自分の考えを説明する場面で、やや言語化が困難な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読みはできているが、文章の中で活用できるように、いろいろな文章に慣れる必要がある。 ・自分の考えを叙述を基にして、根拠を明確にして表現できるようにする。 ・定規、コンパス、三角定規などを扱うときには、道具の使い方を繰り返し、個別に指導する。 ・課題把握、自力解決、練り上げ、まとめなどの問題解決学習を通じて、思考力、判断力、表現力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①国語辞典の活用の推進 ②自分の根拠を明確にした考えの記述→友達との意見交流→振り返りの流れを授業で繰り返す ③問題解決学習 ④デジタルドリルの活用
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きは身に付いている児童が多い。 ・説明的な文章では、各段落の役割の理解や、要点をまとめることを苦手としている。 ・文学的文章では、読み取ったことについて、叙述を基に説明することを苦手としている。 ・基本的な計算は得意としている傾向があるが、分度器や三角定規を使わずに、計算で角度を求めることを苦手としている傾向がある。 ・重さや長さの単位換算を苦手としている傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の送り仮名を間違える傾向があるので、学習した漢字は日常的に活用する習慣を身に付ける。忘れてしまった漢字は漢字辞典で調べる習慣を身に付ける。 ・初め、中、終わりの段落構成を理解したうえで、各段落の役割を確認する必要がある。各段落の意図や効果を読み取る学習を積み重ねる。 ・読み取ったことについて、どうしてそう考えたのか、叙述を根拠に説明する学習を積み重ねる。 ・重ねた三角定規の角度を問う問題や、平行の性質を活用した問題など、学習内容の適用問題や応用問題の充実を図る必要がある。 ・単位換算については、繰り返し問題を解き、習熟を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①漢字辞典の活用 ②段落の役割や効果の理解 ③叙述を根拠に説明する活動の充実 ④デジタルドリルの活用 ⑤位取り表や単位換算表の作成及び半具体物の活用
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を書くことを苦手としている児童が多い。 ・説明的な文章の概要を捉えることはできるが、文章の細部を読み取ることが苦手な傾向がある。 ・文学的文章では、人物像を読み取ることが得意としているが、場面の状況を理解したり説明したりすることを苦手としている。 ・分数同士の計算の仕方は定着しているが、整数と分数の大小関係の理解が不十分な傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読みはできる児童が多く、概形は理解できている。そのため、漢字の細部や音に着目して書くための支援をする必要がある。 ・主語と述語や、修飾語と被修飾語の関係を理解し、文章に書かれている筆者の主張や、考えについて誤解なく読み取る力を付ける必要がある。 ・人物像を読み取ることが生かして、その人物の心情の変化や起きた出来事を取り上げ、場面ごとの状況を理解できるようにする。 ・分数の理解を深めるために、仮分数を帯分数に直したり、数直線や図に表したりして数の大小が理解しやすいうように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童一人ひとりに即した課題の設定 ②デジタルドリルの活用 ③論理の組み立てについて理解 ④情景描写や、場面のつながりの理解 ⑤数直線を用いた数の大小の理解

	<p>・小数×小数の計算が定着している児童が多く、2つの数量を表す○と□の関係を式に表すことを得意としている。</p>	<p>・得意がさらに伸ばせるように、立式の際に説明をする活動や言葉の式に表す活動を取り入れていく。</p>	<p>⑥解法の追求、発展的な課題への取り組み</p>
--	---	---	----------------------------